「十島村いじめ問題を考える週間（標語）」○「友だちの　かなしい顔はみたくない」（藤澤優真：悪石島小３年）○「はじめよう　いじめのない　たのしい生活」（岩下捷人：小宝島小２年）

十島村教育委員会だより　平成 30 年 12 月号

むらやかたカラ情報

十島村教育委員会
〒 892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL　099-227-9771

南北１６０㎞
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

12 月･･･ユネスコ無形文化遺産登録

十島村教育長　有村　孝一

11 月 26 日、無形文化遺産の登録を審査するユネスコの政府間委員会が、インド洋の島国モーリシャスの首都ポートルイスで開幕されました。日本から申請された「悪石島のボゼ」など８県 10 件の伝統行事からなる「来訪神：仮面・仮装の神々」は、29 日午前（現地時間）に登録が決まりました。

今回の登録については、昨年度から「悪石島のボゼ」を含む全国 10 件の、面や被り物、泥などをまとって行う伝統芸能を「来訪神：仮面・仮装の神々」としてひとくくりにして、ユネスコの文化遺産に登録申請をしましょうということで、協議を重ねてきました。それは、甑島の「トシドン」が先にユネスコに登録されていたので、それに付随して新たに加えるという形で登録していくということでした。

昨年申請をいたしましたが、昨年は審議されませんでした。それは、政府間委員会が 1 年おきの開催のためです。待ちに待った今年は、モーリシャスという国で開催されます政府間会議で審議されたわけです。

最終的な審議に先立って、10 月 24 日に、政府間委員会の評価機関より「記載」の勧告がなされました。勧告には、①記載（記載するもの）②情報照会（締約国に追加情報を求めるもの）③不記載（記載にふさわしくないもの）の三つがあり、悪石島をはじめとする私たちの申請は、「記載」ということで、ほぼ登録されるというところに来ていました。そして、今回 11 月 29 日に開催されました会議において、正式に登録されることとなったのです。登録されたから、何が変わるのかということですが、基本的には、今まで通りにお盆の行事として実施することに変わりはありません。ただ、今後は十島村だけでなく、「悪石島のボゼ」というのが、世界が注目してくるようになるということです。つまり、世界の「ボゼ」になるということです。

これまで悪石島の方々が、お盆の行事として長年にわたって守り伝承してきたことが、世界というステージで認められたということは、たいへん素晴らしいことです。

今まで以上にしっかりと伝承に努めると共に、今回の事で、十島村の認知度が上がり、観光面にお

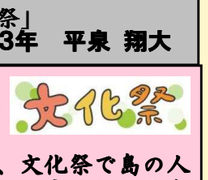
いても貢献するもの、と大いに期待されるところであります。この度、「悪石島のボゼ」がユネスコ無形文化遺産に登録されましたことは、悪石島のみならず、十島村民全体の喜びとする所であります。これから、守り育てていかなければならないと思います。

祝１　実用技能英語検定
４級合格　金森七海（諏：中２年）
５級合格　池田美夕（平：中２年）

祝２　第 61 回県作文コンクール
小学生の部特選　片野田楽（悪:５年）
入選　森木洋那（悪:６年）

祝３　日本昆虫協会　夏休み昆虫研究大賞
佳作　西　えほん(悪:中２年)

シリーズ――十島村で学ぶⅠ
「島おこしを提案した文化祭」
中之島中学校3年　平泉 翔大



私たちは、去年からふるさとづくり委員会の方といっしょに、どうしたら地域を活性化できるか考える学習をしてきました。そこで、文化祭で島の人に私たちなりの考えを提案しようということになりました。

まず、島の代表的な農産物を生かした島おこしを考えようと、みかんと田芋について調べはじめました。

田芋は、今では生産者が減ってとても貴重なのですが、小中学生にはあまり好きでない人が多いです。私たちは、油で揚げて田芋チップスを作り、小学生に食べてもらったところなかなか好評でした。工夫次第で島の産物のよさがもっとアピールできるのではないかと思いました。

地域の方にお話をうかがううちに、他にも魅力的な産物がたくさんあることに気付き、調べる幅を広げていきました。また、島のものを生かして宝島で事業をしていらっしゃる方もテレビ会議で質問に答えてくださいました。そこでは、商品にして世に出すまでの難しさややりがいを知ることができました。

文化祭の舞台では、「それぞれの得意なことを生かしてトカラブランドを作り上げる」という劇にして発表しました。練習から本番まではあっという間でした。

今回の学習で、島の産物を失わないために、生かし方を考えていくことが大切だと感じました。中学最後の大きな行事として心に残った文化祭でした。

シリーズ―― 十島村で学ぶⅡ
「楽しいな口之島」　口之島小学校3年　村上　絢音

私は今年の四月に東京から山海りゅう学生として口之島にやってきました。口之島には私が来る前からお姉ちゃん二人が山海りゅう学をしていました。それまでは、十月にある文化祭や運動会に出るだけだったのであまり口之島のことは知りませんでした。

口之島に来てからはりん海学校や海づり大会などたくさんの行事がありました。私は泳げないので、追い込み漁がありました。りん海学校では、じめは海に入るがこわかったです。でも海に入ってみると、さんごしょうやめずらしい魚を見てきれいだなと思いました。追い込み漁でとれたハリセンボンをおみそしるにして食べるとみがぷるぷるしていてとてもおいしかったです。

そのほかにも口之島小中学校では、金管バンドやエイサーなどを放課後に練習しています。私は十月からトランペットをえんそうすることになりました。音を出すときに息を強くふくのがとても大へんだけど、音が出るとうれしいです。これからもっと上手にふけるように練習したいです。

今、私は理科の勉強がとても楽しいです。ほかは苦手なので、ふく習をがんばってもっとかしこくなりたいです。

Xマスプレゼントとして、今年も、吉留建設さんからケーキ、ＪＡさんからペンやキャラクターグッズのプレゼントがありました。ありがとうございます。

シリーズ―― 新聞に投稿Ⅰ
（平成 30 年 11 月 14 日：南日本新聞　「若い目」）
「村民文化祭に参加して」
宝島小学校6年　尾家 礼都

十島村村民文化祭に、宝島のスチールパン演奏で参加しました。オープニングにもかかわらず、たくさんのお客さんが集まっていたので、とても緊張しました。

ぼくたち「マリンキッズたから」は、この日のために、たくさん練習してきました。スチールパンの音を初めて聞いた人も多かったようで、ぼくたちの演奏で少しでも宝島やスチールパンに興味を持ってもらえたことがよかったです。

演奏していくうちに、緊張もほぐれてきて、最後にお客さんにたくさんの拍手をもらった時には「やっていてよかった。練習の成果が出せた」と思いました。

他の島の伝統芸能も初めて見ました。特に、悪石島のボゼにはとても興味がありました。展示されているボゼは見たことがありましたが、実際に動いているボゼはとても迫力がありました。

ぼくたちの住む宝島のよさ、十島のそれぞれの島のよさを分かり合うことができました。これからもスチールパンの練習を続けて、たくさんの人に魅力を伝えたいと思います。また、他の島の友達を大切にして、つながりを深めていきたいと思います。

シリーズ―― 新聞に投稿Ⅱ
（平成 30 年 11 月 26 日：南日本新聞　「若い目特集」）
「みんなの文化祭」
宝島中学校1年　福島嘉津穂

宝島小中学校の文化祭は、児童生徒だけでなく、島の人たちも参加する、かなり大きなイベントだ。だから、たくさんの人たちの前で学習成果の発表や劇をしなければならない。

文化祭の練習は、運動会が終わってすぐに始まった。難しかったのが、ダンスと英語のスピーチだ。ダンスは、はやりの「U.S.A」を踊った。体育の時間や昼休みを使って練習した。先生の指導を受けて改善し、だんだん良くなっていった。

英語のスピーチは、マララ・ユスフザイさんの国連でのスピーチを、中学生４人で分担した。最初のうちは２、３行を覚えるのに１時間ほどかかっていたのだが、練習を重ねて、最後には何も見ないでジェスチャーを入れて言えるようになった。

そして迎えた文化祭には、たくさんの島民が見に来てくれた。どきどきしながら舞台袖で待っていると自分の番が来た。緊張したが、ダンスもスピーチも練習以上にうまくいった。

中学生になって初めての文化祭は、大成功だった。小学生が、ぼくたちの踊ったダンスをまねしているのをたまに見る。それを見て、やってよかったと思えた。

【十島村の宝島小・中学校からのメッセージ】
教諭　清水　秀樹

宝島小・中学校に赴任して早くも２年目になります。十島村の生活にもだいぶ慣れてきました。

前任校の通勤時には、自宅から車で約１時間。往復２時間。一日の 1/12 は、車の中での生活。年間 200 日は、出勤します。計算すると、年間で約 17 日間は、車の中にいることになります。その間、運転に集中し、渋滞に気を使うことにもなります。

宝島での生活は、ほとんど車を使わず徒歩で出勤します。ゆっくりと流れる時間の中、アカショウビンの鳴き声に耳を澄まし、朝日に照らされる女神山を見ながら、澄んだ空気をいっぱいに吸って、一日、子どもたちのために頑張ろうと気持ちを入れます。

離島という環境は、一見不便さや大変さを思い浮かべます。しかし、町の生活では、気づかないものがたくさん見えてくるところでもあります。また、そのような環境で、島の方々は、たくましく生活し、子どもたちはのびのびと生活をしています。

教育現場では、「地理的なへき地はあっても、教育にへき地はあってはならない。」と言われています。どこの子どもたちも「できるようになりたい！」という願いを持っています。離島の良さを大切にし、子どもたちの成長のために今後も頑張っていきたいと思います。

【『教職員仲間であるあなた』への私からのメッセージ】

十島での経験は、これからの教師人生で大きな意味があります。小さな離島から、市内まで経験できるのは鹿児島の大きな特徴です。経験に勝る宝はないと思います。一人一人を大切に一緒に頑張りましょう。